

ガードラックラテックス

仕 様 書

水系 木材保護塗料

< JASS 18 M-307 材料規格品 >

和信化学工業株式会社

平成 年 月 日

ガードラックラテックス

木材は、非常に美しい素材ではあるものの、限られた天然資源であります。素材の持つ美しさを出来る限り長く保ち、大切に使用していかなければなりません。木材を使用するにあたって、「美観」と「保護機能」を長期に持続させる為には、紫外線や風雨に耐え、腐朽菌・カビ・白蟻 等による害から守る為の処理が重要となります。さらには、これらの処理に起因する自然環境や安全面への配慮も重要な課題であります。

『ガードラックラテックス』は、これら課題を充分考慮し、お客様からのニーズに答えるべく開発された塗料です。特長として、屋外耐候性に優れ、防腐・防カビ・防虫機能を付与させております。塗りやすく、その仕上がりは木地感を活かした鮮やかなものとなります。又、『JASS 18 M-307 木材保護塗料 材料規格』にも相当し、非常に安全性の高い、お客様の使いやすさを追求した屋内外向け水系木材保護塗料であります。

ガードラックラテックスは、日本建築学会が定める
< 建築工事標準仕様書 JASS 18 塗装工事 M - 307 木材保護塗料 材料規格 >
に相当する水系木材保護塗料です。

§ カラーラインナップ

LX-1 ブラック	LX-2 オレンジ	LX-3 チーク
LX-4 ワインブラウン	LX-5 チョコレート	LX-6 グリーン
LX-7 オリーブ	LX-8 ハニーメープル	LX-9 オーク
LX-10 マーロン	LX-11 グレー	LX-12 ホワイト
LX-13 白木色	LX-14 マゼンタ	LX-15 レモンエロー
LX-16 セイルブルー	LX-17 ナチュラル	計 17 色

また、これらを混ぜ合わせて調色することも可能です。

尚、色を薄くしたい場合、樹脂量・薬剤量はそのままに、透明の専用希釈剤

「ガードラックラテックス レジューサー」も用意しております。

レジューサーだけで屋外には塗装できませんのでご注意下さい

§ 特 長

薬剤効果が高く持続性のある新世代塗料

マイクロカプセルを利用した、木材をカビ・腐朽菌・白蟻等から守る水系タイプの木材保護着色塗料です。これらの効力を有する薬剤をカプセル化することにより、優れた薬剤効果とその抜群の持続性を実現しました。

高い安全性

- ・厚生労働省指定の毒物・劇物、消防法の危険物に該当しません。
- ・急性経口毒性 LD₅₀値 2,000mg/kg以上 マウス雌雄

LX-8ハニーメープル色にて外部機関にてテスト

低臭

水系塗料とすることで、極めて高い低臭化を実現致しました。嫌な臭いの原因の一つとなる薬剤をカプセルで包み込むことにより、更に安全性を高め、屋内への塗装も可能となりました。

*** 屋内で使用する場合には注意事項があります。**

優れた耐候性

厳選した顔料・樹脂・薬剤等の組み合わせにより、優れた耐候性を有し、木材を美しい状態で守り続けます。

優れた塗装作業性で美しい仕上がり

優れた塗装作業性を有し、透明性の高い木目を活かした鮮やかな仕上がりとなります。また、原液のまま使える一液タイプで、取り扱いが簡単です。

§ 用 途

屋内外の木部全般に塗装できます。

外壁，フェンス，エクステリア遊具，屋内壁 等。

§ 使用 方 法

1. 使用前によく攪拌して、中身を均一にしてください。
2. 原液のままお使い下さい。色を薄くしたい場合にはレジューサーで希釈して下さい。ただし、色が薄くなるに従い耐候性が劣る傾向があります。
3. 木材内部まで良く浸透させる為、刷毛にたっぷりつけてすり込むように塗装して下さい。
4. 標準塗装回数は2回、塗布量は1回目 50 g/m^2 2回目 50 g/m^2 が目安です。
素材の吸い込み具合により塗布量は変わります。

標準塗布量よりも塗布量が非常に多くなると乾燥が遅くなり強いタック感（ベタつき）が発生します。

塗料が染み込み難い堅木などの場合には標準塗布量以下でも強いタック感（ベタつき）が発生する場合があります。

* 詳しくは、§ 塗装工程（例） もしくは § 使用上の注意 をご参照下さい。

§ 塗 料 性 状

外 観	各 色 液 体	
粘 度	11 秒 ± 2 秒	№4 フォードカップ/25
密 度	1.04 ~ 1.08 ± 0.02	ウェイトカップ/25
不 揮 発 分	10.8 % ~ 21.3 %	計 算 値
VOC 量	0.23 % ~ 1.65 %	計 算 値：沸点 50 ~ 260 が揮発性有機化合物をカウントしています。
凍結安定性	異 状 な し	- 15 / 室温 凍結融解 5 サイクル
保管安定性	異 状 な し	50 / 1 ヶ月保管

§ 乾 燥 性 目 安

杉単材 塗布量 $40 \sim 60 \text{ g/m}^2$ 気温 / 湿度 = 20 / 60%
乾 燥 1 ~ 2 時間（1 回 → 2 回目 塗り重ね可能時間）

乾燥時間は塗装状況により変わりますので参考として下さい。吸い込みの少ない素材では特に2回目の乾燥に時間がかかる事がありますのでご注意下さい。

換気をよくして養生して下さい。換気が悪いと乾燥が遅れる事があります。

換気が悪いもしくは塗布量が標準よりも非常に多いと乾燥が極端に遅れ強いタック感（ベタつき）が発生する可能性がありますので注意が必要です。

標準塗布量は主に針葉樹で設定している為、塗料が染み込み難い堅木などの場合には標準塗布量以下でもタック感（ベタつき）が強く発生する場合がありますので木材の種類による影響にも注意が必要です。

§ 塗膜性能

項 目	結 果	条 件
耐 酸 性	○	5%酢酸水 スポットテスト 24H
耐アルカリ性	× 材黒変	5%炭酸ソーダ水 スポットテスト 24H
耐 水 性	○	水道水 スポットテスト 24H
耐アルコール性	○	60%エタノール水 スポットテスト 24H
耐 溶 剤 性	○ ×	塗料用うすめ液 スポットテスト 24H キシレン スポットテスト 24H
耐マジック性	黒 × 赤 ×	24H 後ベンジン拭き取り
耐クレヨン性	黒 赤	24H 後ベンジン拭き取り
耐 イン キ 性	黒 × 赤 ×	スポットテスト 24H
促進耐候テスト	異常なし	杉材 2 塗り キセノン WOM テスト 1000 時間照射

耐薬品性テストはカバ合板に 2 回塗り 7 日間養生後テスト
上記試験項目・結果は弊社試験要項に基づき行ったものであり、品質を保証
するものではありません。

§ 防カビ効力

JIS 及び日本木材保存協会規格を参考にした社内防カビ試験
3cm 角杉材片にカビ孢子けん濁液を散布し 28 /95%にて 1 ヶ月
(実験室 シャーレの中での培養テスト)

菌株： A：リゾープス ストロニファー (クモノスカビ)
B：アスペルギルス ニガー (クロコウジカビ)
C：ペニシリウム シトリヌム (アオカビ)
D：オーレオバシディウム プルランス (黒色酵母)
E：トリコデルマ ヴィリデ (ミドリカビ)

結果：検査した 5 種の菌全てにおいて、防カビ効力が認められる。

§ 塗 装 工 程（例）

屋外 新規塗装（例）

工 程	使 用 塗 料	乾 燥 時 間	塗 布 量	備 考
素地調整	P150 サンドペーパー			
1 回 目	原 液	2～4 時間	50 g / m ²	刷毛塗装
2 回 目	原 液	一晩養生	50 g / m ²	刷毛塗装

塗布量は素材の吸い込み具合により大きく変わります。

また、乾燥時間は塗装状況により変わりますので目安として下さい。

換気をよくして養生して下さい。

換気が悪いもしくは塗布量が標準よりも非常に多いと乾燥が極端に遅れ強い
タック感（ベタつき）が発生する可能性がありますので注意が必要です。

標準塗布量は主に針葉樹で設定している為、塗料が染み込み難い堅木などの
場合には標準塗布量以下でもタック感（ベタつき）が強く発生する場合もあり
ますので木材の種類による影響にも注意が必要です。

ケバ取りが必要な場合には軽く P320 サンドペーパーにて研磨して下さい。

その際色が取れる可能性があります。色が取れた場合には、2 回目塗装前に
タッチアップして下さい。

屋外 リフォーム塗装（例）

工 程	使 用 塗 料	乾 燥 時 間	塗 布 量	備 考
素地調整	高圧洗浄 P150 サンドペーパー-研磨 漂白等			
1 回 目	原 液	2～4 時間	50 g / m ²	刷毛塗装
2 回 目	原 液	一晩養生	50 g / m ²	刷毛塗装

塗布量は素材の吸い込み具合により大きく変わります。特に痛みのひどい
木材の場合はよく染み込み、塗布量が多くなることが予測されます。

また、乾燥時間は塗装状況により変わりますので目安として下さい。

換気をよくして養生して下さい。

換気が悪いもしくは塗布量が標準よりも非常に多いと乾燥が極端に遅れ強い
タック感（ベタつき）が発生する可能性がありますので注意が必要です。

標準塗布量は主に針葉樹で設定している為、塗料が染み込み難い堅木などの
場合には標準塗布量以下でもタック感（ベタつき）が強く発生する場合もあり
ますので木材の種類による影響にも注意が必要です。

素材の状態によって、洗浄・研磨・漂白などが必要です。痛んでスカスカ
した状態の木材は、削ってから塗装することをお奨めします。汚れがひどい
状態ままで塗装するときれいに仕上がらないことがありますので試し塗りを
行い仕上りの確認して下さい。

屋内 新規塗装（例１）

工 程	使 用 塗 料	乾 燥 時 間	塗 布 量	備 考
素地調整	P150 サンドペーパー			
1 回 目	原 液	2～4 時間	50 g / m ²	刷毛塗装
2 回 目	原 液	一晚養生	50 g / m ²	刷毛塗装

塗布量は素材の吸い込み具合により大きく変わります。

また、乾燥時間は塗装状況により変わりますので目安として下さい。

換気をよくして養生して下さい。

換気が悪いもしくは塗布量が標準よりも非常に多いと乾燥が極端に遅れ強いタック感（ベタつき）が発生する可能性がありますので注意が必要です。

標準塗布量は主に針葉樹で設定している為、塗料が染み込み難い堅木などの場合には標準塗布量以下でもタック感（ベタつき）が強く発生する場合もありますので木材の種類による影響にも注意が必要です。

ケバ取りが必要な場合には軽く P320 サンドペーパーにて研磨して下さい。

その際色が取れる可能性があります。色が取れた場合には、2 回目塗装前にタッチアップして下さい。

屋内 新規塗装（例２ 人が触れる箇所への色取れ防止仕上げ）

工 程	使 用 塗 料	乾 燥 時 間	塗 布 量	備 考
素地調整	P150 サンドペーパー			
着 色	ﾌﾞﾚｯｸｽ原液	2～4 時間	50 g / m ²	刷毛塗装
着 色	ﾌﾞﾚｯｸｽ原液	4 時間以上	50 g / m ²	刷毛塗装
上塗り	ﾌﾞﾚｯｸｽ 木部用ﾌﾞﾚｯｸｽ	2～4 時間	100 g / m ²	刷毛塗装
研 磨	P320 サンドペーパー			
上塗り	ﾌﾞﾚｯｸｽ 木部用ﾌﾞﾚｯｸｽ	一 晩 養 生	100 g / m ²	刷毛塗装

塗布量は素材の吸い込み具合により大きく変わります。

また、乾燥時間は塗装状況により変わりますので目安として下さい。

換気をよくして養生して下さい。

換気が悪いもしくは塗布量が標準よりも非常に多いと乾燥が極端に遅れ強いタック感（ベタつき）が発生する可能性がありますので注意が必要です。

標準塗布量は主に針葉樹で設定している為、塗料が染み込み難い堅木などの場合には標準塗布量以下でもタック感（ベタつき）が強く発生する場合もありますので木材の種類による影響にも注意が必要です。

室内の人が触れる箇所（床、テーブル、イスなど）で使用する場合には、衣服や人体への着色の付着防止に上塗り塗料の塗装をお薦め致します。

1. 原則として原液で使用して下さい。尚、薬剤効果はそのまま、淡色にしたい場合には「ガードラック ラテックス レジューサー」で希釈して下さい。
ただし、薄めすぎると耐候性低下の原因となりますので充分ご注意下さい。
2. 塗布量が標準よりも非常に多くなりますと乾燥性に影響を与え、乾燥時間が遅くなります。加えてタック感（ベタつき）が強くなりタックが無くなるまでに相当の時間を要しますので塗布量の過多については十分注意して下さい。
（特に室内では注意が必要）
設定している標準塗布量は主に針葉樹で設定している為、塗料が染み込み難い堅木などに塗装した場合には標準塗布量以下でもタック感（ベタつき）が強く発生する場合があります。塗料の乾燥性やタック感（ベタつき）には木材の種類によって影響されることもありますので注意が必要です。
3. 室内の人が触れる箇所（床、テーブル、イスなど）で使用する場合には、衣服や人体への着色付着防止に上塗り塗料の塗装をお薦め致します。
4. 本塗料は薬剤を包んだマイクロカプセルと顔料及び樹脂等から構成されており、保存状態によっては分離・沈降する場合がありますので、使用する前には十分攪拌して中身を均一にして下さい。
5. 塗料がプリン状に固まっている場合がありますが、塗料の異常ではありません。
振とうすれば流動性が戻り使用出来るようになります。
6. 塗膜性能が十分に出ないうちに雨や水がかかると塗膜が溶けたり、痕が残ったりすることがありますのでご注意下さい。
7. 塗膜の乾燥性は、気温や湿度、風の有無により大きく異なります。
5 以下の環境での塗装・養生を避けて下さい。
8. 塗料の安全性には十分注意しておりますが、作業の際はできるだけ換気を良くして塗装して下さい。
9. 作業は眼鏡・手袋・エプロン等の安全保護具を着用し、皮膚に付着した場合は石鹼水でよく洗い流して下さい。
10. 目や口に入った場合は、多量の水で洗い、速やかに医師の診断を受けて下さい。
11. 塗料容器・塗装用具は水で洗えますが、残塗料・洗浄した水は、下水・河川に捨てないで下さい。
12. 塗料の保管は密閉し子供の手の届かない冷暗所にして下さい。
また、塗料を凍らせないように注意して下さい。
13. 刷毛等の塗装道具の洗浄は、乾かぬうちに水でよく洗ってください。一旦乾いてしまうと水では落ちませんので注意して下さい。
14. 素材や設置する方角などの条件により耐候性能に差が生じることがあります。
更に詳細な内容が必要な場合には、安全データシート（SDS）をご参照下さい。